

インフルエンザワクチンの接種によりインフルエンザの発症を予防したり、発症しても症状が軽くすみ、重症化や死亡を予防する効果が期待されます。以下の事項をご理解頂いた上で接種をお受け下さい。

【副反応】

まれに以下のような副反応が出ることがあります。

発疹、じんましん、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみ、血管浮腫、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、腹痛、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、咳嗽、動悸、筋力低下など。接種部位に発赤、腫脹、硬結、熱感、疼痛、しびれ感、小水疱など(通常2～3日で消失)。

蜂巣炎(細菌による化膿 性炎症)、顔面神経麻痺などの麻痺、末梢性ニューロパチー、失神・血管迷走神経反応、しびれ感、振戦、ぶどう膜炎など。

<非常にまれだが重大な副反応>①ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫など)②急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害 など)、③脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、④ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)⑤けいれん(熱性けいれんを含む)、⑥肝機能障害、黄疸、⑦喘息発作、⑧血小板減少性紫斑病、血小板減少⑨血管炎(IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎など)、 ⑩間質性肺炎、⑪皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、⑫ネフローゼ症候群 など。

【健康被害の救済制度】

副反応による健康被害が生じた場合、救済制度があります。独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(電話 0120-149-931、URL <http://www.pmda.go.jp>)にご相談下さい。

【予防接種を受けることが出来ない人】

- 1 明らかに発熱のある人(37.5℃以上)
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3 過去にインフルエンザワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人(医薬品でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師へご相談下さい)
- 4 その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

【予防接種を受ける際に医師への相談が必要な人】

- 1 発育が遅く、お医者さんや保健師さんの指導を継続して受けている人
- 2 カゼなどのひきはじめと思われる人
- 3 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- 4 前回の予防接種を受けたときに、2日以内にアレルギーを疑う症状がみられた人
- 5 今までにけいれんを起こしたことがある人
- 6 過去に免疫不全と診断されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- 7 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患のある人
- 8 薬の投与または食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- 9 妊娠の可能性のある人

【接種後の注意】

- 1 接種後30分間は院内にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- 2 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- 3 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。ただし、はげしい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 4 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。